

精密

東海大学精密機械同窓会
事務局
〒259-12
神奈川県平塚市北金目1117
☎ 0463(58)1211 内4391
湘南校舎12号館
精密機械工学科事務室内
印刷 信友印刷株式会社
☎ 03(444)2481(代)

会報発行にあたって

同窓会々長 大川成樹



同窓会員の皆様方におかれましては、日々御健勝のこととお慶び申し上げます。
さて、精密機械工学科同窓会も、発足以来五年を経過し、遅

ればせながら、ここに同窓会報を発行する運びとなりましたので、ひとこと、ごあいさつ申し上げます。

精密機械工学科同窓会は、昭和五十六年、機械系三学科の同窓会発足にともない、動力機械生産機械各同窓会とともに発足いたしました。目的は、平凡ではありますが、同窓生相互の親睦を計り、以って、今後、更に、精密機械工学科を充実、発展させることにあります。
我々の精密機械も、現在は、

学科として独立し、立派にその使命を担って来ておりますが、その前身は精密機械工学専攻であり、今から二十一年前の昭和四十年に誕生しました。以来、今日まで、卒業生は一千六百名を超えるに至っております。同窓会設立後、先づ、会員名簿の作成に着手し、約一年を要して、不完全な部分ではありますが、まとめ上げ、皆様に可能な限りお届けするようにいたしました。その後、見直しを繰返し、現在では、更に充実するに至っております。

さて、学窓を離れ、年月を重ねるにしたがい、次第に学友間の距離も広がり、疎遠となつて行くことは、やむを得ないことも知れない。私も、卒業後十年間程は、気の合った学友と年

末に集まり、歎談に話を咲かせたものであったが、昨今は、勤務の都合などにより全国各地に分散してしまい、会うこともままならず、僅かに賀状で無事を確認しあうような状態となつて志にして、かような状態であるからして、まして、親しくつき合う時間の少なかった友、あるいは異学年の仲間とのコミュニケーションは不足にして余りあるものと思われまふ。ある人は言う。同窓会など必要なからうと。確かに、そのような考えもあると思われまふ。しかし、世に言われているように、学生時代

の友は一生の友であるとも考えます。私達は、青春の数年間を共に学び、喜び、そして哀しみを分かち合った。それらの友と、会報あるいは会合などを通じて語りあえることは素晴らしいことと思ひます。今後とも、我々同窓生の手で精密機械工学科同窓会を盛上げて行こうではありませんか。

末筆ながら、この会報は、今後の精密機械工学科を背負つて立つ、若き研究者であり、教師でもある吉田一也、楳林達雄両氏の尽力により成るものであり、ここに、御礼申し上げます。



1号館より新12号館を望む

精密

政務部長 先生

同窓会々長就任にあたって

同窓会々長 野島 暁夫



会員諸氏におかれましては益々ご健勝のことと拝察申し上げます。精密機械同窓会誌「精密」第2号の発行に際し一言ご挨拶申し上げます。

私は、初代同窓会々長大川成樹氏の後を継ぎ、昨年の代議員会にて第二代会長の役目を賜りました野島暁夫でございます。同窓会活動の発展を目指し、微力ながらお引受けいたす事といたしました。皆様のご支援ご協力をいたしたくよろし

くお願い致します。

また、同窓会の設立以来この間、初代会長の太川様初め各役員の方々のご協力のおかげで当同窓会も会員数二、四五百名を数えるまでにいたり、その活動も年を追う事に活発になり、年々発展の一途をたどりまいました。太川様初め前役員の方々の尽力に同窓会員を代表いたしまして心よりお礼申し上げます。

さて、当同窓会の創生期に於ける現在の継続的な活動は、在校生に対する就職説明会、卒業時の同窓会賞・記念品贈呈等新規人会者卒業生にたいする内容が多く、会員相互の親睦等に沿った活動が不足がちであったことは否めません。創生期にあつて、限られた活動資金と時間の中で、如何に会の発展に結びつけて行くか

東海大学精密機械同窓会局 事務局

〒259-12 神奈川県平塚市北金目1117
 ☎0463-58-1211内4381
 湘南校舎12号館 精密機械工学科事務室内
 印刷 須賀印刷株式会社 ☎03-3444-040189

の選択として、このこと自

体は当然の方針であったと思ひますし、限られた諸状況の中でここまで活動を定着されたことに敬意を表するものであります。

結成以来十二年経過したこの時期、私は会の規模からしても、当同窓会の目的に沿った活動を

員諸氏の皆様に積極的に働きかけ、又、

多方面で参加していただく時期になってきたのではないかと判断しております。この様な活動を主体とした私の任期を当会の成長期とし、将来の成熟期への橋渡し期

と見做す所です。

通期	専攻	学科	卒業年度	会員数
1	1		43	69
2	2		44	88
3	3		45	98
4	4		46	107
5	5		47	107
6	6		48	127
7	7		49	132
8	8		50	131
9	9		51	139
10	10		52	139
11	11		53	139
12	12		54	139
13	13		55	139
14	14		56	139
15	15		57	139
16	16		58	139
17	17		59	139
18	18		60	139
19	19		61	139
20	20		62	139
21	21		63	139
22	22		64	139
23	23		65	139
24	24		66	139
25	25		67	139
26	26		68	139
27	27		69	139
28	28		70	139
29	29		71	139
30	30		72	139
31	31		73	139
32	32		74	139
33	33		75	139
34	34		76	139
35	35		77	139
36	36		78	139
37	37		79	139
38	38		80	139
39	39		81	139
40	40		82	139
41	41		83	139
42	42		84	139
43	43		85	139
44	44		86	139
45	45		87	139
46	46		88	139
47	47		89	139
48	48		90	139
49	49		91	139
50	50		92	139
51	51		93	139
52	52		94	139
53	53		95	139
54	54		96	139
55	55		97	139
56	56		98	139
57	57		99	139
58	58		100	139
59	59		101	139
60	60		102	139
61	61		103	139
62	62		104	139
63	63		105	139
64	64		106	139
65	65		107	139
66	66		108	139
67	67		109	139
68	68		110	139
69	69		111	139
70	70		112	139
71	71		113	139
72	72		114	139
73	73		115	139
74	74		116	139
75	75		117	139
76	76		118	139
77	77		119	139
78	78		120	139
79	79		121	139
80	80		122	139
81	81		123	139
82	82		124	139
83	83		125	139
84	84		126	139
85	85		127	139
86	86		128	139
87	87		129	139
88	88		130	139
89	89		131	139
90	90		132	139
91	91		133	139
92	92		134	139
93	93		135	139
94	94		136	139
95	95		137	139
96	96		138	139
97	97		139	139
98	98		140	139
99	99		141	139
100	100		142	139
合計				2453

平成5年度 東海大学工学部精密機械工学科謝恩会



平成5年度卒業謝恩会 (1994.2.18 厚木ロイヤルパークホテルにて)

間と考へてあります。この成長期における具体的な責務といたしまして次の課題に取り組みたいと考へております。

一、役員会及び幹事会の組織的運営

今回から副会長には企画・事務局業務担当と会計業務担当となつていただきました。更に、各役員は複数の方にお願ひし、一部の方に負担が集中しないように入会運営業務の分担と継続的な業務の推進と継続性をはかつてまいります。

二、会員諸氏への広報活動の活性化
 会員諸氏への働きかけが重要な時期であります。学科諸先生方の動向を初め、

会員諸氏の活動あるいは動向等親睦と各種情報を会誌「精密」を通して皆様にお知らせし、色々な意味での参加を呼び掛けていきたいと考へております。

三、会費と活動資金確保の問題
 増加した会員への通信費用等の諸費用の増加に依つて、実質的には会の活動が